

## (2) 校内支援チーム（不登校対策委員会）の構成

### 支援チームを組織する意義

不登校の子どもへの支援は、校内で支援チーム（名称は不登校対策委員会・教育相談委員会等）を組織して取り組んでいくことが大切です。

校内にこのような支援チームがあれば、不登校の問題を学級担任が一人で抱え込んで苦労するということがなくなります。また、さまざまな立場の援助者が協力することにより、必要な情報を共有し、適切な対応を考え出すこともできます。

管理職や教育相談活動の核となる教職員を中心として、不登校の問題に対応できる体制を確立することが重要です。

### 構成員

- ・ 支援チームは、以下のような立場の援助者によって構成するのが一般的です。校長・教頭（管理職）、教育相談担当、生徒指導主事、養護教諭、各学年の教育相談担当、スクールカウンセラー（以下「SC」と記す）。
- ・ 各学年の教育相談担当は、校務分掌とは別であっても、配置できると組織的な対応をより機能させることができます。場合によっては、学年主任がこの役を担うことも必要です。
- ・ 校長や教頭（管理職）が加わることも重要です。管理職は、学校全体としての協力体制を築くためのリーダーシップを発揮することが望ましく、そのために、常に校内の不登校の子どもに関する情報を把握しておくべきです。また、校外の専門機関との連携が必要な場合（虐待問題や発達障害が関係している不登校の場合等）、学校全体としての意思決定が必要です。

< 各立場の援助者の役割は、次ページの例図を参考にしてください >

### 不登校対策委員会が機能するための体制づくり

#### 〔情報収集の仕組み〕

週に一度、学級担任から、気になる子ども（不登校あるいは、その傾向のある子ども等）の状態やこれまでの働きかけについて簡潔な報告を文書で提出してもらい、各学年の教育相談担当教職員がまとめる。

#### 〔委員会での協議〕

週に一度の委員会の場で、各学年から報告されている子どもに関して情報交換を行い、見立てや対応策について協議する。

#### 〔学年教職員への伝達〕

そこで話し合われた内容について、各学年の教育相談担当教職員を通じて各学年の教職員にフィードバックする。

## 校内支援チーム(不登校対策委員会)の組織と各援助者の役割(中学校の一例)

